

様式第3号（第7条関係）

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市立図書館協議会
- 2 開催日時 令和8年2月25日（水） 午前10時00分から11時30分まで
- 3 開催場所 水戸市立内原図書館 視聴覚室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委 員
川又宏文, 平松良崇, 渡辺一良, 小橋ひろこ, 小泉郁子, 齊藤恵, 兼清紀郎, 木内令子,
高池宣彦, 中山健一, 龍田理, 滑川友理, 黒木勇
 - (2) 執行機関
堀野辺直, 鈴木敦子, 三好正高, 柳橋敬子, 田中環, 市瀬早紀, 吉田浩和, 白鳥謙哉,
笹川直樹, 林美雪, 大津美砂
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 令和7年度図書館利用状況について（公開）
 - (2) 令和7年度図書館事業実施状況について（公開）
 - (3) 令和7年度学校図書館支援事業について（公開）
 - (4) 令和7年度図書館利用者アンケート結果について（公開）
 - (5) 指定管理者の指定について（公開）
 - (6) 令和8年度図書館運営方針及び重点課題（案）について（公開）
 - (7) 令和8年度の主な事業（案）について（公開）
 - (8) その他（公開）
- 6 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 7 会議資料の名称
 - (1) 令和7年度第2回水戸市立図書館協議会
- 8 発言の内容

【議 長】第1号議題，令和7年度図書館利用状況について，事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議 長】第1号議題につきまして，御質問御意見がございましたらお願いします。

【__委員】入館者が増えているのはすごく良いことだと思います。貸出の数をさらに増やしたいというのも大事な課題なので，ぜひ，取り組んでいただきたいです。表について一つ，1の全館利用状況の実績が令和7年度見込みなのに対し，2のイベント等の開催状況，3の親子で絵本事業は令和8年1月末現在になっている。そうすると，2と3は，前年が令和6年度全ての実績と令和8年1月末現在の実績を比べることになり，少し乱暴な気がします。確かに，見込みは確定した数字ではないわけですが，数字を同じ視点で捉えるのは大事だと思うので，例えば2は，それぞれの1月末現在の数字を比べていくとかすると，数字として比べやすい気がします。

【事務局】非常に参考になりましたので，次にお示しするときに，改善できるよう，研究して参りたいと思います。

【議 長】その他に御質問，御意見などがありましたら，御発言をお願いします。

【__委員】2のことについて伺います。イベント等の開催状況が，令和6年度と比較して，約15%増の844回，1回あたりの参加人数は減少している傾向にありますが，結構な回数を増やされていると印象があります。1で，入館者数は増えていても，児童書の貸出点数が減っているという御報告をいただきましたが，こども連れの保護者等が減っているので児童書が減っているのではと思いましたが，ただ，水戸市としても，7水総の中で，地域でこどもを育てるとというのが載ってまして，各学校で，特に低学年のこどもたちに読書を推進するというのを，取り組んでいます。図書館の存在，特に児童書の存在っていうのは，こどもたちにとって，健全な育成に非常に大きな影響と役割を担っていただいていると思います。こういったイベントを増やしている傾向が，こどもとか家庭向けなのか，それとも高齢者とか，いわゆる趣味なのか，ということによっても，人数は増えて児童書が減るという見方が変わってくると思ひまして，イベントの開催状況の中身を伺いたいです。

【事務局】イベントの開催の内容について，東部図書館で育児コンシェルジュによるミニミニおはなし会というのを，毎月，1日3～4回，開催しておりまして，そちらの数字が非

常に多くなっております。ボランティアのおはなし会等については、例年とおりであまり増減は出ていないので、おそらく開催回数の増加については、育児コンシェルジュのおはなし会の開催が影響しているものと思われます。一般の方を対象にしたイベントとしては、映画会、講演会等を行っております、そちらの方は、前年度とあまり変わりません。中央図書館においても、映画会を毎月1回、開催しております。傾向としては、やはり、こども向けのイベントが多い、という状況であります。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】各図書館の、日々の入館者数のカウントの仕方は、どのようにしておりますか。

【事務局】各図書館の入口にカウンター機を設置しております、そこを通過すると、数字が上がる仕組みになっております。カウントの方法としては、入るときと出るときがございますので、2回通過すると1回カウントが上がる取り方をしております。

【__委員】分かりました。然るべきカウンター機を置いて、出る入るを算出していると思うのですが、そうすると、人によっては行ったり来たりとか、そのような出入りがあると思ひまして、その辺はアバウトと捉えてよろしいでしょうか。

【事務局】通過する方が何をするかというところまでは、入館者数では集計できませんので、トイレだけを使いたいとか、ちょっと見学に来たという方も集計として入っております。

【__委員】従って、入館者数というのは、利用の内容によってではなく、トータル的な出入りのカウントというような捉え方でよろしいんですね。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】先ほど、地域でこどもを育てるというお話がありましたが、水戸市内の各市民センターで、こどもスペースが設置されています。各市民センターにも図書室があると思うのですが、そちらの本は、誰が管理しているのでしょうか。身近なところで借りられれば、貸出数も増えると思ひました。

【事務局】市民センターの図書室の管理につきましては、図書の管理自体は市民センターの方が日々やってらっしゃいますが、図書館としては、市民センターに、配本という形で、分野を絞った本を置いて、貸出をしてもらうというやり方になります。市民センターの本を借りる場合には、記帳式と言ひまして、市民センターでノート等に記録して、そのチ

ェックで貸出返却を行っております。

【__委員】それは貸出点数には入らないのですか。

【事務局】貸出点数につきましては、各図書館の個人の貸出点数の集計でございまして、市民センターで個人で借りている方の集計は含まれておりません。

【議 長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】3の親子で絵本事業についてですが、令和7年度の配布人数が、昨年度に比べて大幅に減っているのは、ブックスタートの開催回数が減っているということでしょうか。

【事務局】開催回数につきましては、あまり昨年度と増減は無く、0歳児の人数が減少していることが原因と思われます。

【__委員】昨年度も、この事業をもう少し普及しようという話が協議会で出ていたと思うのですが、もう少し、皆さんに周知していただきたいと感じました。

【事務局】昨年度のお話を受けまして、今年度から、わんぱく・みとで毎月1回、親子で絵本事業を試験的に実施しております。

【事務局】補足になりますが、子育て支援課で、療育支援が必要な家庭に家庭訪問をしております。そのような家庭は図書館になかなか来られないだろうということで、親子で絵本事業の絵本を渡して、家庭訪問の際に持って行っていただく、ということも実施しております。また、各年度の10月時点の、0歳児だけの人口を見ますと、令和6年度は17,000人ちょっといるのですが、令和7年度になりますと1,511人で200人以上減ってまして、そういったところも大きく影響に出ていると推測いたしました。

【議 長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。よろしいでしょうか。続いて、第2号議題、令和7年度図書館事業実施状況について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】(資料に基づき説明)

【議 長】第2号議題につきまして、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。

【__委員】 7のYAサポーター育成について、数字として少ないと思います。この事業は、いつから開始しているのか、どのような経過でこの人数なのか、説明をお願いします。

また、提案ですが、YAサポーター育成という視点ではなく、我々、高齢者、年齢があがった者も、図書館事業に対して協力できる方がいると思います。親の世代で存続が難しくなったこども会を、祖父母の世代が頑張るって、育成会として存続、イベントを企画するといった取組みも結構聞いております。小さいこどもたち、0歳の人数が少なくなっているという現状に対し、高齢者の人数は多いような気がするので、高齢者のパワーを上手に活用して、御協力をいただいて、もっと啓発することで、図書館が盛り上がる気がします。

【事務局】 YAサポーターについて説明いたします。詳しい年数はお答えできませんが、約5年ほど前からYAサポーターが始まっております。最初は東部図書館、見和図書館から始まりまして、各館4～5名ぐらいから、その人数も定かではないのですが、始まりまして。徐々に7～8名に増え始めたところで、ここ2、3年の間に、常澄図書館、西部図書館にYAサポーターの登録がありました。また、今までは、地区館が各担当地区の中学校にYAサポーターの案内をしていたのですが、今年度は中央図書館から全中学校、高校に一斉案内をしていただいた結果、さらに広がりを見せまして、中央図書館にもYAサポーターの登録がありました。そのような状況であります。

【事務局】 補足になります。5年ほど前から開始した、東部図書館と見和図書館に、最初に参加していただいた中学生が、高校生まで参加して、昨年度無事卒業して、YAサポーターも卒業しまして、東部図書館は一から募集しました。人数が減ったり増えたりする状況になりますので、数字に表れにくいところがございます。

【議 長】 その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】 今説明いただきました図書館事業実施状況、指定管理者提案事業が多く実施されてました。指定管理者提案事業も、水戸市職員と協議しながら実施していると思いますが、図書館流通センターと水戸市職員の連携の仕方を教えてください。

【事務局】 指定管理者との連携は、会議は2種類に分かれております。まず、各地区館の館長と中央図書館も参加する館長会議を月1回開催しておりまして、各館の情報共有等を図っております。また、それ以外の細かな打合せとしては、指定管理者代表者、副代表者と指定管理者担当職員で、打合せを月2回開催し、綿密な情報共有、意見交換を行っております。

【__委員】 私のこどもの時代から比べると、非常に多岐に渡る図書館の事業を実施していた

だいて、非常に素晴らしいことだと思います。これからも引き続き、しっかり連携をとっていただきながら、推進していただきたいです。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【委員】2点ほどございます。先ほどYAサポーターのお話がありましたが、中高生がこちらに登録した場合、大学進学とか高校進学するときの内申書とかに登録される、水戸市のオフィシャルのものという認識で良いのでしょうか。

【事務局】あくまでボランティアですので、どこまで影響するかというのはお答えできないのですが、ボランティアの証明書を発行してほしいとお問合せがあった際は、各館で対応しております。

【委員】活動がきちんと校外学習として、認知されるという風な状況でしょうか。

【事務局】希望された方には、ボランティア証明書を発行、対応しております。

【委員】水戸市の青少年会議とか、中高生が携わっているところがいろいろあると思うのですが、若い世代の子たちが公共活動等に従事してほしいというのを、こちら側が発信していく中で、きちんと時間や熱量等を認めてあげて、それを制度化するというのは、必要だと思います。例えば、勉強ができる、運動ができると同じように、地域活動に貢献できると、そういった思いを出せるという子は認めてあげるものを、行政側が出してあげると、子どもたちも参加しやすいと思います。言われたら出しますというようなスタンスではなく、きちんと学校で表彰しますとか、してあげた方が子どもたちも、保護者の方も子どもの特徴を伸ばせるのかな、という風に思います。そういったところ、取組をしていただきたいと思いました。

もう1点伺います。先ほどの来館者数とも関係してくると思いますが、市内でも、いわゆる中央と南部では、子どもの数、学校の児童数に大きく差があるところです。これは、市のPTAでも一つの課題となっておりまして、その中で、読み聞かせとか、館によっても差が出ていると思うのですが、そこら辺はどのように捉えているか、お聞かせいただきたいです。

【事務局】読み聞かせの各館ごとの数字の違いということでもよろしいでしょうか。令和7年度の実績になります。読み聞かせ、行事の開催回数だけになります。東部図書館が一番多くて278回開催されております。次に見和図書館が97回、次に多いのが西部図書館、44回。次が常澄図書館と中央図書館、内原図書館が約40回、というような結果になって

おります。やはり、南部地区が含まれる東部図書館のおはなし会、読み聞かせの回数が多いという状況にあります。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】YAサポーターに関する質問ばかりで申し訳ありません。高校で読み聞かせや紙芝居等の同好会とか、いろんなサークル活動をやっているのですが、それらと連携はされていますか。YAサポーターは単独の活動ですよ。従って、もったいないと思います。各高校の読み聞かせ等同好会に放課後学級に来ていただいて、読み聞かせ等していただいたり、長期休みにはイベント等実施していただきます。そういったところで、単体ではなくて連携をとりながらやっていただければ、もっと拡張していくと思います。実にもったいないと思って、普通、単体で活動していると、それを連携しあうのは、非常に望まれるものだと思いますので、御検討いただきたいです。

【事務局】YAサポーターとは違いますが、今お話いただきました高校のサークル活動の連携に近いと思ひまして、中央図書館でいきいき出前講座の事業がございまして、県立水戸商業高校のJRC同好会に、毎年、読み聞かせのやり方というのを出前講座として行っております。そういったところから広げていければと思います。

【__委員】定期的を開催していただいて、子どもたちが非常に喜んでおります。そこで、読み聞かせだけの活動のみならず、コミュニケーションも発生して、いろんな年代をまたがったコミュニケーションは非常に良いと思います。コミュニケーションの場を広めていく活動も必要かと、推進していただきたいです。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。続いて、第3号議題、令和7年度学校図書館支援事業について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】(資料に基づき説明)

【議長】第3号議題につきまして、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。

【__委員】まず、1点目ですが、学校図書館支援事業、議会でも、各小中学校1校に1人の学校司書を配置してほしいというような陳情もありました。水戸市の状況として、中央図書館に司書を配置して、そこから各小中学校に派遣していくということで、巡回しながら対応しますということで、議会でも了承したという経緯があります。2の図書購入に係る選書のアドバイスに「教職員・児童生徒の要望に応じた図書の提案」と書かれているので

すが、どういう立場の先生から提案いただいているのかっていうのが疑問です。学校に司書がいれば、その方が提案してくれると思うのですが、司書がない学校では、どういう先生から要望をお伺いしているのか、ということをお教えいただきたいです。

【事務局】学校によって、先生の方針が異なります。図書担当の先生というのが各学校にあります。その先生が、基本的に選書の責任者になります。その先生の要請によって、こういう本を中心的に買いたいんですとか、そういうことをお伺いしたりします。先生が、年2回ほど送られてくるカタログを全部読み込んで、自分でこれを買いたいという場合は、こちらとしては何も言うことはありません。ただ、学校図書館支援員は司書の資格を持ち、公立図書館の経験もごございますので、本の知識は大変持っております。例えば、学校図書館メディア基準を参照して、十進分類法のこの分野の本がちょっと数が足りないというものを、中心におすすめしたりですとか、そういうアドバイスをしております。

【__委員】非常に懸念する部分では、生徒数が大きい規模の学校ですと、日々の生徒の指導対応に追われながら図書館の作業を行うのが、どうしても後回しになっているという印象を受けます。私、小中学校PTA会長やってみましたので、そういう中で、それぞれの学校に応じた、教職員の方々と中央図書館の司書の連携を、密に行っていただきたいという思いがあります。そういうこと含めて、議会でも、各学校1人の司書を配置しなくて良い、と認めた経緯がありますので、その辺はしっかりやっていただきたいと思います。

それと、2の図書購入に係る選書のアドバイスに参考として、「令和6年度 公費購入分冊数」が載っておりますが、令和7年度の購入冊数は、示していただけないのでしょうか。要は、国で予算化されている購入冊数にほぼ届かない形で水戸市は予算化されておりますので、できることであれば、除架していく本も、しっかりと新しい本に替えていただきながら、新しい本の予算も確保して、購入冊数を増やしていただきたいと思います。

【事務局】国の方で基準、クラス当たりいくら、小中学校にこれだけの本を買うように、と示されておまして、それに関しては水戸市で予算化して、その額を学校図書館支援員も把握して、購入の方は進めているところでございます。

【事務局】令和7年度の購入冊数を報告いたします。令和8年1月末現在で、小学校が7,450冊、中学校が3,170冊です。発注の締切が12月末でして、そこで品切れになった本を再度購入したりしてしますので、年度末には変更される予定です。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】学校図書館ボランティア向け研修会は、本の修復についてがメインのようですが、

水戸市で、図書館ボランティア、学校図書館のボランティア向けに読み聞かせ講座等は、行っておりますか。県立図書館には読み聞かせ講座がありまして、民間の団体による読み聞かせの講座もあります。

【事務局】ボランティア向け研修会は、毎年、内容を変更しておりまして、4年前に読み聞かせの講座を行いました。一昨年はポップの書き方、昨年に今回と同じ「本の修理と装備の基本」を行ったのですが、好評で、もう一度やってほしいという声が多数でしたので、今年度も同じ内容で行いました。

【__委員】私も図書ボランティアをやっていて、各学校で図書ボランティアの確保がとても難しいんです。卒業してしまうと、また新しい人をいれるのが難しい。朝の時間に読み聞かせを行いたくても、今は、働いている親が多いので、朝の時間に来てもらうのが難しく、卒業してもボランティアに在籍して読み聞かせを行っているのが現状ですね。読み聞かせのハードルが高いっていうのもあるので、もっと身近に、年に1回、読み聞かせについての講座があると良いと思います。私は、民間の講座に行ったことがあるのですが、すごい人数が来ていました。また、曜日も関係すると思います。仕事している人たちは、木曜日の午前中に来るのが難しいと思うので。土日は他のイベントもいろいろあって難しいと思いますが、読み聞かせの講座みたいなのを開催してもらえると、学校内での図書ボランティアの活動が窮屈になっているところの、少し助けになると思います。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言お願いします。続いて、第4号議題、令和7年度図書館利用者アンケート結果について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議長】第4号議題につきまして、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。

【__委員】これは全て、図書館利用者のアンケートですが、なぜ来ないのかっていう、利用できない人の意見も聞いてみたいと思います。何らかの形で、行ったことはありますか。

【事務局】実際に利用していない方に対する調査として、図書館基本計画を数年おきに作成しておりまして、その過程で、ある一定の市民の方にアンケートを行い、その中の御意見を反映しているところでございます。

【議長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】細かい点ですが、別紙3のアンケート結果で、内原図書館の要望のところに「子どもに被害を与える大人がいるため、子どもが安心して利用できない」とありますが、具体的にどのような事案になりますか。

【事務局】こちらにつきましては、実際に被害を加えているというわけではないのですが、ほかの利用者に威圧的な態度をとる方について複数の利用者から報告が上がっておりまして、おそらくその方に関する事だと思われまます。内原図書館で把握しておりますので、ほかの利用者とのトラブルがないように、巡回等で注視しております。

【議 長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】アンケートを見させていただきました。中央図書館利用者アンケートと、その他の、東部図書館が表になっているアンケート、おそらく管理者が違うことによるフォーマットの違いだと理解しております。指定管理で運営されているアンケートの方が、%だけでなく、利用者の方の要望や感想が、反映されていて、大変読みやすく、私たちも勉強させていただくところもあります。一方で、中央図書館のアンケートは、主に、良いとか悪いとか、%だけなので、もし今後、こういった協議会等で審議する際は、比較できるように、できる限り似たようなフォーマット、実際に利用された方のお声が、こういった場で反映される仕組みを要望したいと思います。

【事務局】指定管理者のアンケートと中央図書館のアンケートでは、若干フォーマットの違いがありまして、これについては、同じようなアンケートになるべく近づけていけるように、研究を重ねていきたいと思ひます。

【議 長】その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。続いて、第5号議題、指定管理者の指定について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】(資料に基づき説明)

【議 長】第5号議題につきまして、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。

【__委員】新たな事業ということで、移動図書館を使用した事業がありましたが、もうちょっと具体的に説明していただきたいです。水戸市で昔持っていたような大きな車両ではなく、軽自動車で行うという話も伺ったのですから。

【事務局】車両については、確かに、以前中央図書館で使用していたのは大型車両で、約2,000～3,000冊積載できるものですが、維持費という問題がありました。現在の主流となっている移動図書館車両は、軽自動車、搭載できるのは500冊と、冊数は減るのですが、非常に小回りが効く、運転しやすいという利点の方が重宝され、ほかの自治体でも主流になっているようです。現段階では、その専用車両納品後、サービスの初年度はスポット運行、いわゆる単発で、まつりやイベント等、人が集まるところに運行して、主に移動図書館についての周知をメインで行い、その後、ルート運行、決まったところを巡回していく運行を検討しております。

【__委員】令和8年度は、イベント会場等にとりあえず行き、翌年度に、巡回等検討していく、という説明でよろしいでしょうか。巡回も、令和8年度から行うということでしょうか。

【事務局】令和8年度は、移動図書館を知ってもらおうという点でスポット運行を行い、その後、どこを巡回するか決めながら、準備を行う計画を立てております。

【議長】ただいまの事務局説明について、御質問御意見がございましたら、御発言お願いします。よろしいでしょうか。第6号議題、令和8年度図書館運営方針及び重点課題（案）について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議長】第6号議題につきまして、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。

【__委員】一貫して聞いていて感じたことは、すごく子どもたちとか、いろいろな方、特に子育て世代に対して、読み聞かせ等ケアをされているなど非常に感じました。数字の捉え方について、個人的な感想になります。幼稚園や小学校の現場において、出生数の減少でこどもの数が減って、単学級が増えている等の影響を感じております。今の御報告の中でも、児童数の減少によって目標に達していないみたいな内容がありましたが、そういったネガティブな項目にフォーカスするのを変えてもいいと思います。こどもの数が減少していくのに、個人貸出し実人数等をどうやって増やすのかと、逆に思うので、それよりは、こどもに対する質をお話いただくと、数の部分はしょうがないなって、いろいろな分野において、感じているところですので。例えば、学校図書館における児童生徒一人当たりの貸出し冊数において、令和5年度の小学校一人当たりが7.7冊だったのが、今年の見込みで9冊、若干微増しているのは、皆さんの活動の賜物だと感じておりますし、そういうところを確実に、子どもたち一人一人の冊数を増やすといったところが、保護者として、

P T Aとしては、非常にありがたいと思います。また、令和7年度見込み9冊を、令和8年度に14冊にするのは、結構大変なことだと思います。9冊でも、今までと比べてしっかりしているなど感じますので、数の増加にこだわることなく、質を確保していただけるようなものをお示しいただけると、すごくこちらとしてもありがたいと感じました。

【議 長】 その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】 今の意見を、そうだよなと思いつつ聞いていました。あんまりネガティブな方に目を向けずに、現状から少しでも改善したところを大いに自信にして、働く方、あるいは我々、関係している人間の、力にしていければ良いと思います。ただおそらく、目標指標は図書館基本計画に示されているので、ないがしろにするわけにはいかない。でも、それはそれで、数字は数字で残しつつも、少しでも伸びた部分を大事にして、内容とか質とか、そういう部分をしっかりと捉えて、なかなか数字に表せないようなことを上手にやることで、もっと親しみやすい図書館になるかなと思います。違う視点でお話ししますが、水戸市図書館基本計画の目指す姿「誰もが読書に親しみ、学び、成長できるまち・水戸」を今日のような資料の中に書いてあると、この目指す姿を元にして、今年度の運営方針があるって分かります。一生懸命話し合っただけで作成した基本計画を、きちんと文言で、資料等にも表しつつ、場合によっては図書館のどこかに掲示して、これを進めるにはどんなスローガンが良いでしょうか募集して、どんな図書館が良いですかとか、居心地良い図書館はどんな言葉で表せますかとか、ある意味PRも兼ねてやるのも一つなのかなって感じがします。また、この運営方針の2行目に「こどもが読書に親しむ」とあります。確かにこどもは大事ですが、図書館基本計画に戻ると、「誰もが読書に親しみ」というのが、大前提です。例えば、今年度は、こどもにフォーカスするんだったら、年度ごとに対象を変えて、次年度は高齢者とか、そういうことを何年間かやることで、「誰もが」に収まるような感じがします。

【議 長】 その他に御質問、御意見などがありましたら、御発言をお願いします。

【__委員】 三の丸にあります茨城県立図書館と水戸市立中央図書館は非常に近い距離にあります。ただ、市民にとっては、県も市も関係ないです。中央図書館で冊数、貸出数を増やしていこうって言ったときには、県立とは違うアピール、独自色を出さないとダメなのかなという風に、常々感じているのですが、県立図書館との違いについて、どういうお考えなのかお聞かせいただきたいです。

【事務局】 県立図書館と中央図書館、水戸市立図書館の違いになるのですが、水戸市立図書館は、市民に一番近い図書館として、県立図書館より親しみやすい資料の収集、サービス

を行っております。県立図書館は、県域全部がサービス地域になっており、レファレンス資料も、かなり難しい専門書等を収集しており、また、水戸市ほど、頻繁に納品がされないことから、最近出た本等は、水戸市の方が先に納品されて、貸出が始まるというような状況もございます。そういったところの違いを活かしながら、サービスを行っております。

【__委員】ぜひそういう違い、今おっしゃったような、新しい本は水戸市、水戸市に関係ある資料は、水戸市立中央図書館にありますというのをPRしても良いと感じます。また、まったく違うのは、小中学校との関係性、さらに、市内にいくつも館がある身近な図書館だという違いもあります。是非、県立図書館との違いを市民の方にPRし、そこに磨きをかけながら、頑張っていていただきたいと思います。

【議 長】ただいまの事務局説明について、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。よろしいでしょうか。第7号議題、令和8年度の主な事業（案）について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議 長】ただいまの事務局説明について、御質問御意見がございましたら、御発言をお願いします。よろしいでしょうか。本日、皆様に御審議いただく議題は、これで終了となります。最後に、「その他」といたしまして、何かございますでしょうか。御発言をお願いします。よろしいでしょうか。ほかに、御意見などが無いようでしたら、本日の議題につきましては以上でございますので、これで終了とさせていただきます。進行を事務局にお返しいたします。